

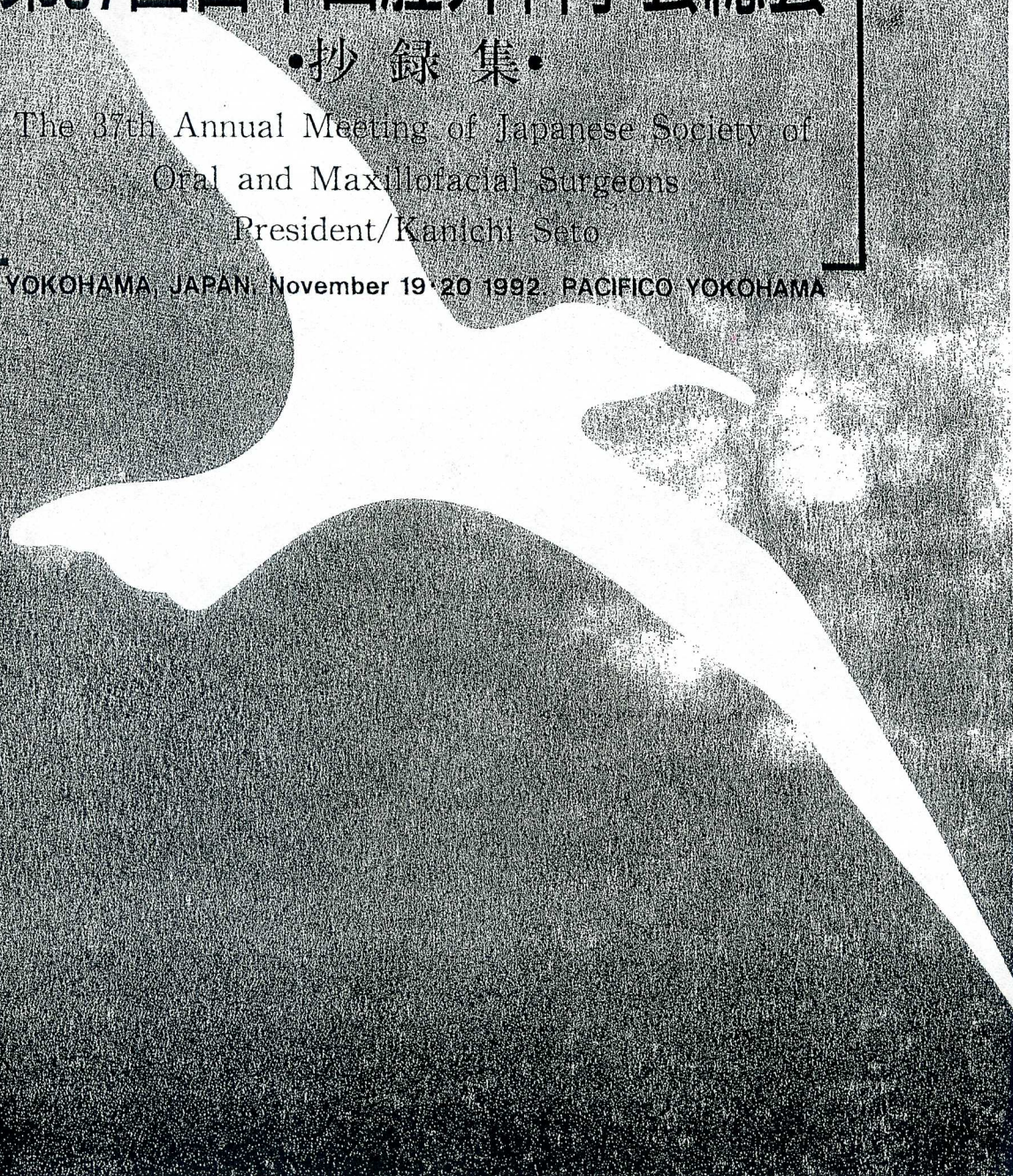
# 第37回日本口腔外科学会総会

・抄録集・

The 37th Annual Meeting of Japanese Society of  
Oral and Maxillofacial Surgeons

President/Kanichi Seto

YOKOHAMA, JAPAN, November 19-20, 1992. PACIFICO YOKOHAMA





鶴見大学歯学部第一口腔外科学教室

○瀧辺孝夫, 中尾 泉, 瀬戸皖一

Histological Observation of Removed Gore-Tex  
Membranes

○Takao Watanabe, Izumi Nakao, Kenichi Seto  
First Department of Oral and Maxillofacial  
Surgery, School of Dental Medicine, Tsurumi  
University.

組織再生誘導法に用いられるコアテックス膜(GT膜)は,人工歯根植立時における骨形態の改善にその役割が期待されている。我々は平成4年5月までに34症例49件(部位)に骨造成を計る目的で本材料を用いた。今回,このうち28症例(男10人,女18人,平均年齢45.8歳)37件で摘出した本材料を病理組織学的に検索し,それらの所見と臨床経過を比較,本材料の有用性を検討したので報告する。術式の内訳は人工歯根植立と同時に骨造成を行ったものが30件で最も多かった。臨床経過をみると,術創の一次閉鎖を得たものは29件あったが,その後徐々にGT膜の露出するものが増加,経過中のGT膜露出例は20件,露出しなかったものは17件であった。さらに腫脹,排膿,膿瘍形成など不快症状を呈したものはGT膜露出例で11件,露出しない例で2件と露出例で不快症状が多発していた。組織学的検索では11件に膜構造内(9件)およびその周辺に骨ないし骨様組織を認めた。この内訳は膜露出例で4件(20.0%/20件),非露出例で7件(41.2%/17件)であった。さらに露出部の膜には細菌叢が形成され,細菌が膜内部まで侵入増殖していた。まとめ:今回,膜構造内に骨様組織を認めたことは本材料が骨組織を伝導する可能性を組織学的に示したことになる。さらに本材料の臨床経過を安定させるには膜の露出とその後の感染阻止が重要であると考えられた。